平成30年度　校内研修のまとめ

１．研究主題　　「資質・能力を育む国語科授業の創造」　～質の高い言語活動を通して～

２．主題設定の理由

本校では、平成22年度より「教育課程拠点校」の指定を受け、Ⅰ期（H22～24年度）、Ⅱ期（H25～H27年度）そして、Ⅲ期（H28～H30年度）と国語科を中心に３年毎に研究実践を重ねてきた。今年度はⅢ期の最終年度として研究の集大成を目指していかねばならない１年である。

昨年度は、「新学習指導要領」を踏まえ、「主体的な学びで共に高まりあう児童の育成～主体的・対話的で深い学びを実現する国語科の授業づくりを通して～」と設定し、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した指導方法を中心に研究し、授業改善を図ってきた。その結果「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」のそれぞれのポイントを整理し、３つの学びを実現させる手立てを取り入れた授業改善を図り、一定の成果が見られた。しかし一方で、「どのように学ぶのか」に重点が置かれ、「身に付けさせたい資質・能力」とのズレが生じてしまう授業になってしまうという新たな課題が出てきた。そこで、今一度、「身に付けさせたい資質・能力」と「指導事項の趣旨」「適切な言語活動」との関係を明確にして授業を組み立てることを大事にし、「付けたい力を確実に付ける」授業を実践するために、研究主題を「資質・能力を育む国語科授業の創造」とし、副題を～質の高い言語活動を通して～と設定した。

本校の研究に長年に亘ってご指導いただいている京都女子大学教授の水戸部修治先生の著書には、「言語活動の高さが、授業の質に直結するため、十分に吟味して単元の指導に言語活動を明確に位置付けることが従来以上に求められる」とある。その単元で身に付ける資質･能力を明確にし、指導のねらいを見極めて､そのねらいの実現にふさわしい言語活動をしっかりと単元に位置付けることが重要なのである。つまり、国語科で身に付ける資質・能力を育むためには、言語活動の質を一層高めていくことが大切であることから本主題を設定した。

３．研究の進め方と方法

＜研究内容＞

（１）育成を目指す資質・能力の具体化と適切な言語活動
（２）主体的・対話的で深い学びを実現する単元計画及び指導過程
（３）学びを実感させる振り返りの在り方
（４）「言葉による見方・考え方」を取り入れた学習過程
（５）思考力・表現力を高めるノート指導

＜研究方法＞

（１）研究部会の充実

・校内の３部会「学力向上部会」、「仲間づくり部会」、「健康・体力づくり部会」の内、研究に関しては、「学力向上部会」が担う。更に「学力向上部会」を３チーム編成とし、帯タイム（基礎学力）班、家庭学習班、授業改善班それぞれが研究を進める。
・学年部会、低学年・中学年・高学年のブロックを中心に授業における実践を持ちより、検証や研究テーマに沿った教材研究、指導案検討、授業研究後の検討を行う。
・研究には、全教員で携わる。

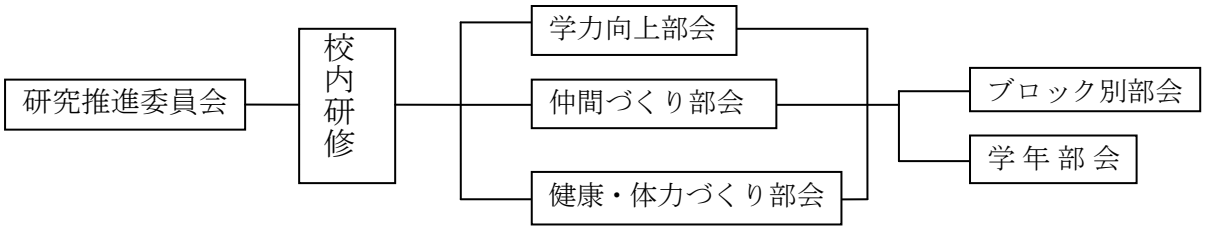
（２）授業研究

・一人年間３回公開授業

単元構想図をもとに、研究テーマに沿って教材研究し、指導案を作成。（年間１回）他の公開授業については略案（授業解説シート）を提出。授業研究の事前・事後の協議を重視する。課題を明確にし、授業改善を図って、次時につなげる。

・教育課程拠点校事業研究発表会当日（11 月 1 日）は、各ブロック代表が提案授業を行う。

（３）研究組織



４．今年度の主な取組

（１）育成を目指す資質・能力の具体化と適切な言語活動

・「身に付けさせたい資質・能力」を明確にし、その力を確実に付けるための言語活動として効果的であるかを吟味し、最適な言語活動を設定。そのための事前研究の充実を図る。

・児童の実態に合わせ、マトリックス表を活用し、系統的に積み上げるべき力に焦点を絞って単元を構成する。

・「国語科単元構想シート」を新学習指導要領に対応に改善する。

（２）主体的・対話的で深い学びを実現する単元計画及び指導過程

・「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」それぞれの学びを実現させるポイントについて、昨年度の研究成果を生かし見直しを図る。

・単元計画を児童と共に作成することを通して、単元のまとまりを見通した学びや「見通し」「振り返り」の場面を設定し、児童が主体的に学ぶ授業を創造する。

・単元構想図や指導案の中に「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を位置付ける。

・教室に掲示している「考え、深める方法（思考スキル）」「問い返しのある学び合いにする言葉」を授業の中で効果的に活用する。

・思考を深めたり活性化させたりしていくための発問を用意する。

（３）学びを実感させる振り返りの在り方

・付けたい力に結びつく「振り返りの視点」を示して授業の振り返りをすることで、学びの成果を実感させ、学習意欲や問題意識等を次につなげる振り返りにする。

・児童の振り返りを評価したりコメントを入れたりして、児童の学びや成長を認め励ましながら主体的な学びにつなげる。（学びの自覚：メタ認知→主体的な学び）

（４）「言葉による見方・考え方」を取り入れた学習過程

・「新学習指導要領」を基に、「言葉による見方・考え方」を働かせた児童の姿を追究し、共通理解を図る。

・他教科との関連を考え、習得→活用→探究のプロセスを意図的・計画的に組み立てた学習過程を仕組む。

・語彙を充実させる手立てを施し、言葉に着目させた授業を仕組む。

・学年毎に使わせたい言葉を集めシートにしたもの「言葉の宝箱」を活用する。

（５）思考力・表現力を高めるノート指導

・ねらいや条件に合った表現でノートを記す活動を通して、思考の過程を分かりやすく書いたり、言葉を吟味しながら表現したりできる児童を育てる。

・発達段階に応じた「学びの〇カ条」を児童に示し、チャレンジ表で評価を入れながら、目指すノートへの意欲を持たせる。・各学級で児童２名（A評価・C評価各１名）を決め、その児童のノートの変容を見る。

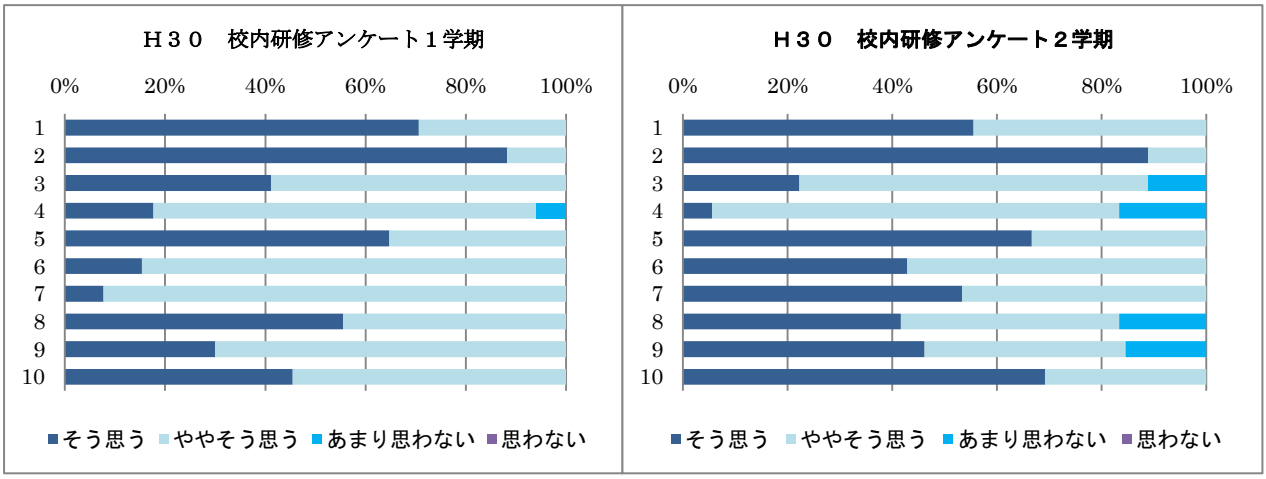
・校内研で定期的に、「国語ノート評価の視点」を基にしながら、学年間や他学年のノートを見合う「ノート交流」をし、全員で進捗状況を確認し指導力を高める。

・学年毎に「自主学習の仕方」を児童に示し、評価の視点を一律にすることで発達段階に応じた内容の充実を図る。

５．今年度の成果と課題

＜校内研修アンケートの結果　２学期末＞

1　研究協議で明らかになった成果や課題（リフレクション）が、日々の授業改善に生かされていると思いますか。
2　校内研修の内容（研究授業や講師招聘、研修等）は、適切でしたか。
3　学力面や生活面で配慮が必要な児童に対して、適切な支援・指導ができましたか。
4　中村小学校・あなたの学級は学習規律（立腰・返事・挙手・声の大きさ・聞き方・話し方）が身についていると思いますか。
5　学年間・ブロック間の学び合い、課題の共有はできましたか。
6　「思考スキル」を活用するなど、思考する場面を設定した授業展開ができましたか。
7　「資質・能力ベイス」の授業づくりの方法がつかめましか。
8　「学びのノート〇カ条」に基づいてノート指導ができていますか。
9　家庭学習と授業のサイクル化・連携を図ることができましたか。
10　視点を決めて、学びを実感させる振り返りをさせることができましたか。



＜成果＞

・「資質・能力ベイスの授業づくりのための留意点」をまとめ、全教員で確認したり週案にめあてとまとめを書きこんで提出したりすることで、資質・能力ベイスの授業を目指すことができた。

・研究授業では、昨年度から取り組んでいる「リフレクションシート」を活用した振り返りを行うことで授業改善サイクルが確立し、授業者だけでなく参観者も研究授業を振り返り、具体的に改善の方向や方策を明らかにすることができた。

・昨年度から取り組んでいる「板書交流」では、めあてとまとめが対応しているか、付けたい力に結びつく振り返りの視点になっているかなど、「資質・能力を」を意識して板書を見るようにレベルアップを図ることができた。

・全国学力学習状況調査等を全員で解き、問題分析等を行い、これから身に付けさせなければならない資質・能力を捉え、児童の学力課題を明確にし、方策を練ることで学力向上につなげることができた。

＜課題＞

・アンケート結果を見ると、全体的に強い肯定的評価は増えているが、１学期には無かった否定的評価が見られる項目がある。学習の基盤である学習規律の徹底や支援・指導の緩みが出できていること、ノート指導や家庭学習のサイクル化についてできていない要因を突き止め、取組を見直し改善していくことが必要である。

・「資質・能力ベイスの授業づくり」の方法はつかめたものの、全ての児童に付けたい力が確実に身に付く授業の実践することが課題である。